頭脳循環を活性化する若手研究者海外派遣制度　平成 23 年度報告書

平成 24 年 2 月 27 日～3 月 17 日（19 日間）
派遣先：ハワイ大学マノア校

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科
博士課程 平成 19 年度入学
紺屋あかり

1. 研究テーマについて

ミクロネシア諸島パラオ共和国の伝統民族文化を対象として、口承伝承の構造と機能の分析を中心に研究を進めてきた。口承伝承文化をめぐる、①語りやうたの実践、②口承伝承の継承、③統治国による文化政策に関する歴史的検討の調査・分析を実施している。

2. 派遣内容（平成 24 年 2 月 27 日～3 月 17 日：19 日間）

今回のハワイ大学マノア校への派遣では、人類学科 Christine Yano 教授、同東西センター（East West Center）William Feltz 教授との打ち合わせ、シンクレア図書館（Sinclair Library）ならびにハミルトン図書館（Hamilton Library）での資料・文献収集、東西センター（East West Center ）での定例セミナーへの参加、東西センター（East West Center）所属学生（博士後期課程）との意見交換、ハワイ滞在中のパラオ人（男性２名）へのインタビューなどを実施した。

Christine Yano 教授との打ち合わせの内容は、今後予定している平成 24 年 4 月 1 日～12 月 1 日（8 ヶ月間）のパラオ共和国でのフィールドワークの調査計画に関するアドバイス、文献指導、博士論文の構成に関する指摘を受けた。また、これまで報告者によって収集したデータ分析に関するアドバイス（パラオ伝統詠唱歌の歌詞分析など）なども受けた。

【写真 1：アジア太平洋センター】

【写真 2：ハワイ大学マノア校】

3. 派遣中の印象に残った経験や体験

今回の派遣は 19 日間と短期間であったが、滞在中は教授や学生との交流を通して、おもに音楽人類学やオセアニア人類学の分野から多くの知見を受けた。中でも、研究トピックの近い学生（アジア太平洋センター所属、博士後期課程、Berly Yang 氏）との意見交換は非常に新鮮なものであり、刺激を受けることができた。引き続き自主的な研究会などを通して、お互いの研究に対する議論を深めていくことを予定している。

また、ハワイに移住したパラオ人男性 2 名へのインタビューを通して、在外パラオ人による伝統文化の実践について詳しく聞く事ができたことも、今回の派遣において大きな収穫であった。ハワイにおけるパラオ人コミュニティーの活動やつながりについて、また、パラオからハワイへ移住するという選択をした若者たちから見る次世代のパラオ社会についての考察を深めるため、今後もインタビューを継続する予定である。

4. 目的の達成度や反省点

今回は派遣前に予定していた人物以外の学生や教員とも交流することができ、とても充実した滞在となった。今回の派遣で目標としていたことはほぼ達成したと自負している。しかし、予定していたセミナーでの発表がスケジュールの都合上かなわなかった事、さらに各図書館での資料収集が予定したほど進まなかったことなどは今後の課題であり、次回の派遣でぜひ実現したい。

【写真 3：シンクレア図書館】

【写真 4：シンクレア図書館】

5. 今後の目標

今後は、平成 24 年 4 月 1 日～12 月 1 日までのフィールドワークに向けて、今回のハワイ大学派遣で得た研究への新たな視座やネットワークを最大限に活かしつつ調査を実施していく。特に、派遣中に教授や学生との会話の中で指導・指摘された、報告者の研究における現代パラオ社会における政治・経済的分析の不足・不十分という点を補うことを目標とする。具体的には、口承伝承の実践される場としての儀礼空間の分析、儀礼の中での贈与体系の構造分析（伝統的経済システムに関する詳細なデータ収集)、クラン関係に関する聞き取りの強化（世帯調査の継続)、口承伝承の保護政策や文化政策の歴史的分析などである。そして、これまでと継続して詠唱歌の歌詞分析や口承伝承の記録（録音）・分析なども実施していく。